

感動一点の場

『早春』 1977年 小川原 脩 画

遠くの山々から流れ来る川はいかにも冷たい水を湛えているようで、ひんやりとした空気に包まれながらも、大地はうっすらと温もりを持ち始める、そんな早春の気配を感じさせる。雪が融けて、まっさきに顔を出したフキノトウ。それを見つけた犬たちは、嬉しくて仕方がない様子で睦まじく身を寄せ合う。長い冬を越えてやってきた春の訪れへの喜びに呼応して、山頂の残雪も白く輝いている。

雪深い倶知安の冬は、これから本番を迎える。しかし必ず季節は移ろい春がやってくる。ならば、この冬を、この雪の美しさを目いっぱい感じながら日々過ごそうと、私にとってそう思わせてくれる作品である。



文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

ふるさと探訪

—古き良きリユース製品—

417回

年末年始は晦日に正月と、家族や親戚、友人で集まる機会が増える季節。そんな宴の席で目にするのが徳利（とっくり）だ。

徳利というお酒を入れる容器のイメージが強いかもしれない。しかし、かつてはお酒の他にも醤油や酢、油などを保存したり運んだりするのにも使われ、ガラス瓶やペットボトルなどが開発される以前は重要な生活道具の一つだった。そのため、大きさもバリエーションに富んでいて、大きいものだと液体が一斗（18ℓ）入る徳利もあった。

お酒や調味料の販売方法は今と違い、貸し徳利や貧乏徳利などと呼ばれる一升（1.8ℓ）くらいの小売り用の徳利を店から借りて、必要な分だけ計って入れてもらう、というものだった。徳利には店の名前や電話番号、酒の銘柄などが書かれ、これが店と家とを行き来する時に人目に触れるため、広告宣伝の効果もあった。また、丈夫で何度でも繰り返し使える点でも大変優れていて、本来の使い道以外にも、食べ物の貯蔵や湯たんぽとして、長いものだと数十年も使い続けられてきた。倶知安風土館に収蔵されている多くの徳利も、大切に使われてきたからこそ今に残されている。

モノが豊かになり、大量に消費する傾向にある現代だからこそ、先人のリユース精神から学ぶことは多い。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）

■展示のご案内

現在倶知安風土館では、小川原脩記念美術館で開催中の「徳丸晋写真展『水面』-minamo-」と連携して「見たい！知りたいたい！半月湖」を開催しています。ぜひご覧ください。

会期：～2月4日（日）
会場：倶知安風土館

展覧会のお知らせ

■常設展示

「小川原脩展 アジアの街角で」

小川原脩は晩年の大きな転換点ともいえるアジアへの旅で、中国桂林、チベット、インドのそれぞれの風物に、鮮烈な印象を受けました。小川原脩が描いた、アジアの街角で人と動物たちが繰り広げる悠々とした時間。あたたかな色彩に包まれた作品をどうぞご覧ください。

会期：開催中～4月15日（日）

■企画展示

「徳丸晋 写真展『水面』-minamo-」

倶知安町在住の写真家・徳丸晋さんの写真作品「minamo」シリーズを紹介します。フィールドとする半月湖は倶知安町の豊かな自然を象徴する場所とも言えます。独自の視点で水面の色彩の変化を捉えた徳丸晋さんの作品世界との出会いをお楽しみください。

会期：開催中～2月4日（日）

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン アート探訪〈みて☆きいて〉10

「モディリアーニ～瞳のない肖像画」

20世紀初頭、イタリアからパリに出てきたモディリアーニは、酒と貧困の中から哀愁をたたえた独特の作品を完成させます。その瞳のない肖像画に込められた画家の思いとは。

日時：1月13日（土）14時～15時

講師：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム（無料）

■アート・シネマ館

「モディリアーニ 真実の愛」2004年 /127分 / フランス・イギリス・イタリア（字幕）

貧困に喘ぎながらも自分の芸術を完成させようともがくモディリアーニ。すべてを捨ててモディリアーニを献身的に愛し、画家のために尽くす妻ジャンヌ。二人の麗しくも哀しい愛を描きます。

日時：1月20日（土）14時～16時10分

お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム（無料）

■アーティスト・トーク

「徳丸晋の世界 ～minamo～」

羊蹄山の麓に佇む半月湖をひたすら見つめ、その水面の多彩な表情を撮り続ける倶知安在住の写真家・徳丸晋さん。ご自分の作品についてさまざまな角度からお話ししていただきます。

日時：1月27日（土）14時～14時30分

講師：徳丸 晋さん（写真家） 会場：当館第2展示室（要観覧料）

冬休みは小中高生の美術館観覧が無料！

12月20日～1月20日まで、小中高生の美術館観覧料は無料です。冬休みはぜひ美術館へ！

◆小川原脩記念美術館 開館時間：9時～17時（最終入館は16時30分）
観覧料：一般500円（400円） 高校生300円（200円） 小中学生100円（50円）

◆倶知安風土館 開館時間：9時～17時（最終入館は16時30分）
観覧料：一般200円（100円） 高校生以下、小川原脩記念美術館観覧者は無料

※風土館はいつでも、小中高生無料。美術館、風土館いずれも（ ）は10名以上の団体料金です



小川原脩記念美術館 倶知安風土館
☎ 21-4141 ☎ 22-6631

開館時間は9時～17時
（入館は16時30分まで）

1月の休館日
1～5日、9日、16日、23日、30日

ゴッホ ～最後の手紙～

今年の国際アニメーション映画祭で、10分以上のスタンディングオベーションが続いた話題作。その原画は、世界各国から集められた125人の画家による65,000枚の油絵という世界初の試みでした。つまり、最初から最後まで、ゴッホ風に描かれた油絵が連続して動いているようなものです。

ただ、私にとって印象的だったのは、むしろそのストーリーです。麦畑での自殺という通説とは異なり、若者による他殺説を示唆して終わりますが、そこに至るまでのゴッホの心の動きが、実に丹念に描き出されていたのです。観終わった後、胸の内では同じ言葉を何度も繰り返していました。「なぜそこまでして描くのだ、ゴッホよ」と。

館長 柴 勤